

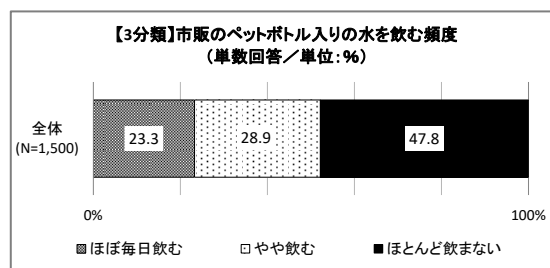
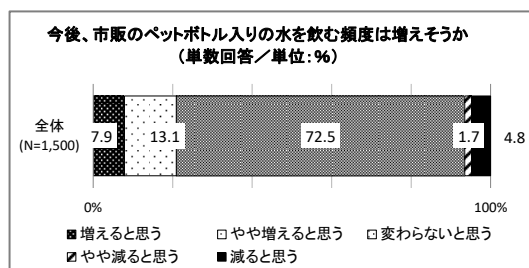
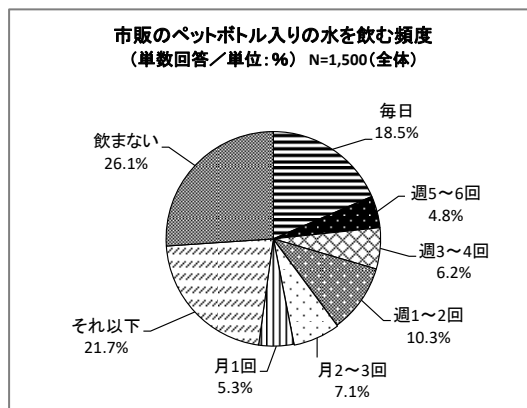
Q.市販のペットボトル入りの水を飲む頻度は？（7択＋飲まない）

Q.今後、飲む機会が増えると思うか？（5択）

◇飲む頻度のボリュームゾーンは昨年同様。

普段、市販のペットボトル入りの水を飲む頻度は、「毎日」「週5～6回」を合わせた週5回以上の“ほぼ毎日飲む人”が23.3%で昨年（23.6%）とほぼ変わらず、「週3～4回」「週1～2回」「月2～3回」「月1回」を合わせた週4回～月1回の“やや飲む人”が5.1ポイント減の28.9%、「それ以下」「飲まない」を合わせた“ほとんど飲まない人”が5.4ポイント増の47.8%で、ボリュームゾーンは変わりませんでした。

また、今後飲む機会が増えると思うかについては、「変わらないと思う」が7割超（72.5%）を占め、「増えると思う」「やや増えると思う」を合わせた“増加意向のある人”が2割程度（21.0%）、「減ると思う」「やや減ると思う」を合わせた“減少意向のある人”は1割に満たない6.5%で、昨年とほぼ同様の結果となりました。



Q.温室効果ガス排出ゼロを実現するために毎月払える金額は？（金額を自由回答）

◇全体の平均額は、1,265円。年代別トップは20代の1,470円。

前述の「2050年までに温室効果ガスの排出ゼロを実現するために毎月払える金額」（5頁）について、回答金額の平均を見たところ、全体の平均金額は1,265円でした。年代別にみると、20代が1,470円と全年代で最も高く、最も低かった60代（1,107円）より300円以上高い金額となりました。「地球温暖化に伴う気候変動への危機意識」の設問（4頁）では、20代は危機を意識している人の割合が60代の半数強程度でしたが、環境への支出には積極的な姿勢がうかがえました。

温室効果ガス排出ゼロを実現するために毎月払える金額(年代別平均)

年代	平均金額
全体 (N=1,488)	1,265円
20代 (N=295)	1,470円
30代 (N=298)	1,331円
40代 (N=297)	1,195円
50代 (N=298)	1,228円
60代 (N=300)	1,107円

※「10,001円以上」を回答した場合には不明として集計（12件）

Q.知っている祝日・記念日は？（9択＋知っているものはない）

◇「水の日」の認知率が過去最高。

水や自然にかかわる祝日・記念日の認知は、例年、「みどりの日（5月4日）」「海の日（7月第3月曜日）」「山の日（8月11日）」といった祝日の数値が高く、「防災の日（9月11日）」を除いた祝日以外の記念日は一桁台の認知率となっており、今年も同様の傾向でしたが、そんな中、「水の日（8月1日）」の認知率が本設問の調査を開始した2016年以来、過去最高（4.7%）となりました。当センターとしては、今後も「水の文化」に関するより一層の普及・啓発に取り組むとともに、その取り組みが「水の日」認知向上の一助になることを願っています。

